

お盆 七月十三日～十六日

当山では七月十七日十一時より本堂にてお施餓鬼法要を厳修致します。法要終了後お弁当の用意があります。

「お金が一番」という経済の中で生活しています。このような生活がいつまで続くか分かりません。仏教で説く「経済」は「知足」です。「このぐらいでもう充分だよ!」「ほどほどにしておきます!」というように、「足を知る」という生活が仏教で説く経済生活なのです。

最近では物価高が家計を圧迫しています。我々はそろそろ果てしない欲望から遠ざかって、「知足」の生活に戻らなければならないのではないのでしょうか。地球を守ることができれば、先祖の恩に報いることにならぬのではないのでしょうか。そういう意味で「知足」の実行は、尊い先祖供養だと思えます。お盆にはお塔婆をあげ、ご家

族で墓参を致します。 日蓮聖人遺訓 十二 「縦い貧なりとも信心強うして、志深からんは、仏に成らん事疑いあるべからず。」 (身延山御書)

仏になる、立派な家庭をつくるという事は、貧富の差によるものではない。信じ合う心、信じる心にある。

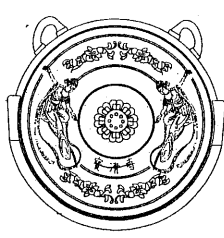


水谷 寶清寺



① 平成十七年四月二十一日に、夫岩佐隆夫様を亡くされた岩佐靖子様より、七面堂正面に鯛口が寄進されました。

琴願靖流の宗家で、多摩を中心に沢山の支部と大勢のお弟子さんをお持ちになっておられます。この度、八王子市に活動の拠点である住居が新築落成されたことを機に、夫慈篤院隆祥日夫居士の供養のためにと寄進の申し出がありました。依頼を受けて、当山境内に安置されている檀家高木源一氏夫妻から寄進された日蓮聖人銅像・四天王銅像を制作した富山県の梶原製作所オリジナルなもの指



鯛口 正面 姿 図

まだ記憶に新しい、秋葉原の事件・孫が祖父を殺害・妻が夫を殺害等々、今まで想像もつかなかった事件の数々に驚愕させられる。社会から疎外された意識から無差別に人を殺したり、支え合ってきたはずの肉親を自己の欲望のために殺害したり、とても信じがたい加害者の精神の荒廃に愕然とする。

私は平成六年四月から東京家庭裁判所の家事調停委員をしているが、年々事件の件数が増加している。最近、調停を申し立てる人の傾向として、自分の思いが通らないから裁判所を利用し、自己の思いを遂げようとする人達が多い。自分の思うようにことが進まなかったり、不幸なのは家族や社会のせいだと責任転嫁し自ら社会に対して疎外感を持ち、世の中にすねる精神的傾向を持つ人が増えていく。その傾向は現代社会が一人の人間では把握できない世界的情報のなかで、人々の意識が外に向き、身の丈以上のものを求め、満たされなくて不満を持つことの積み重ねと、人間関係が世代間を超えた関係から多様な価値観にふれる機会が少なくなってきたことから起こるのではないかと思う。

一方、人々は中国の地震の被害者やミャンマーのサイクロンによる被害者に対する救援は惜しまない豊かな感情も持ち合わせている。今こそ我々は、「家族の支えが精神の拠り所になり、それが挫折を感じたり劣等意識から立ち直れない若者を救うのだ。」との意識に目覚め、自分の出来ることをし、身の丈に合った生活意識を持ち、決して人を羨まず、足ることを知り、世界に向けられた豊かな感情を家庭に・自分の「足下」にも向ける必要があるのではないかと思います。

境内には毎年沢山の花が咲きます。六十一号より裏面に宝清寺の花々を紹介しています。

② 平成二十年一月二十六日に、息子深沢弘司様を亡くされた深沢聖志様より、休憩所に叔父にあたる書家依田静堂様が揮毫された「和氣満堂」の扁額が寄進されました。深沢聖志様は今年新しくお檀家になられた方で、石材業を営んでいらつしやいます。現在、息子安穩院徳優日弘信士の供養のためと精魂込めて墓石を制作中です。新しくお檀家に加えて戴いたことを機に寄進の申し出があり、早速、休憩所に懸けさせて戴きました。「和氣」は「なごやかな気色」「むつまじい気分」を意味し、「和氣満々」の熟語があります。私も「和」という言葉が好きで深い意味に惹かれていたひとりで、平成十九年三月一日号「たちばな新聞」の住職の一口法話9で詳しく書かせて戴いたことがあります。「なごやかな気色がお堂内に満ちあふれる」という言葉はお寺、特に大勢の皆さまが立ち寄られる休憩所に相応しい言葉の扁額で住職として大変うれしく思っています。

当山を訪れた場合、先ず七面堂で鯛口を打ち鳴らしてお参りをし、本堂のご本尊に合掌礼拝し、ご先祖に感謝の墓参をされることをお勧め致します。この度の思いがけない貴重なご寄進に深く感謝致します。

宝清寺年中行事

三月 彼岸中日・塔婆供養
 四月 八日・花祭
 七月 十七日・盂蘭盆会供養
 七月 十七日・お施餓鬼法要
 九月 彼岸中日・塔婆供養
 十月 十二日・お会式法要

日蓮宗の聖日

二月 十五日・釈尊涅槃会
 二月 十六日・宗祖降誕会
 四月 八日・釈尊降誕会
 四月 二十八日・立教開宗会
 五月 十二日・伊豆法難会
 五月 十七日・身延御入山
 七月 八日・本尊始頭会
 八月 二十七日・松葉谷法難会
 九月 十二日・龍ノ口法難会
 九月 十八日・池上御入山
 十月 十三日・宗祖御会式
 十一月 十一日・小松原法難会

御祈願・御供養

交商 通安 全
 売繁盛 祈
 厄位 祈
 運産 祈
 開安星除方虫 願除封願全
 守守祭願除封願全

このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

宝清寺の仏様

今回は七面様のお話しをいたします。

宝清寺の本堂に向かって左側に小さなお堂があります。このお堂は、七面堂と呼ばれ七面様をお祀りしています。

日蓮聖人が身延山で、ご説法をなさっている時、しばしば高貴な女性が聴聞しにいらつしやいました。

聖人の聴聞におとずれていた人々は、このような山奥に、うら若き女性がいることを怪しみました。

ある時、聖人はその女性に質問をしました。「私は身延山の一峰である七面山の池に棲む身であり、いろいろな苦悩からまぬがれたいと願って聖人の説法を聴聞しているのです」と高貴な女性に答えました。

聖人は、大曼荼羅（日蓮宗の御本尊）を授与すると、女性は弁財天であり、お釈迦様が法華経を説いている時、その弁財天は法華経の行者を守護すると誓をたてていたのでした。

聖人は花瓶を取り出して、その女性の前に置き、影を写させたところ、たちまち女性の姿は一丈くらの赤い龍の身となりました。

聖人は「今より、永く七面山に棲み、水火兵乱等の七難をはらい、七堂を守護するように」と申すと、深くうなずき七面山の池に帰っていったという伝説があるのです。

このようなことより、七面様をお参りすると、「七難」（火難、水難、鬼畜、怨念、盗難、刀杖難、伽鎖難）から逃れることができるといわれています。

お墓のお話

「墓」の語源は、「果てる」ところという意味から「埋葬したところ」をあらわしています。

また、「墓」の形として、石塔や供養塔の形態が多いのは、古代インドのストウーパ（塔）から由来されています。

お釈迦様の遺骨を埋葬した塔は、舍利塔と呼び、室町時代にはこのような形の石塔が多く建てられていました。

ストウーパは「卒塔婆」という漢字で書かれ、皆様が法事などで建てられる塔婆の語源ともなっています。

よく質問をされることですが、墓地の管理料について、皆様のお墓を管理する料金と思われる方も多いようですが、この管理料というのは、墓域内共有地の水道代、休憩所、参道、諸設備の維持管理や清掃費にあてられるものなのです。

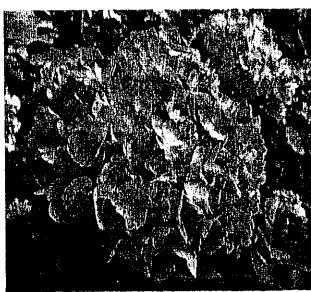
皆様の墓所は各施主様が個人で管理され、月命日、祥月命日または、彼岸やお盆のときなど、ことあるごとにお参りされ、ご先祖様と語り合いをもち、その度ごとに清掃を心がけていただきたいと願っています。

諸事情により清掃が定期的におこなえず、しかし、気がかりである方は宝

清寺管理寺務所までご相談ください。墓所は皆様の縁者が永眠する場所だけでなく、残された縁者や子孫をお守りいただける仏様の魂が宿る聖地でもあるのです。

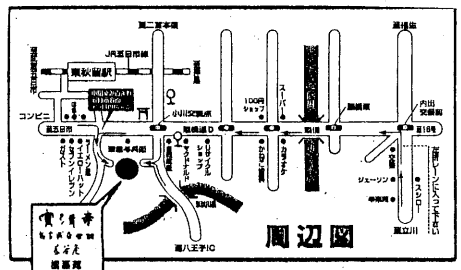
宝清寺の草花

今年も紫陽花の見頃が来ました。藤原保吉は、「紫陽花や、折られて花の、定まらぬ」と詠みましたが、まさに紫陽花は野に咲いている姿が一番良く似合うと思います。



宝清寺にも諸処に、紫陽花や季節の草花が多く咲いております、ご先祖様のお参りの折には、草花の御散策を合わせてなされ、命の洗濯にお越しくくださることをご案内申し上げます。

宝清寺への行きかた



●交通のご案内

■バス利用の場合

- 立川バス 徒歩10分
- 西武東武線 徒歩10分
- 西武東武線 徒歩10分
- 西武東武線 徒歩10分
- 西武東武線 徒歩10分

■電車利用の場合

- 中央線 徒歩10分
- 立川線 徒歩10分
- 東武東上線 徒歩10分
- 東武東上線 徒歩10分
- 東武東上線 徒歩10分

■小川バス停

持島駅